

県営ほ場整備事業（担い手育成型）中川・太田地区

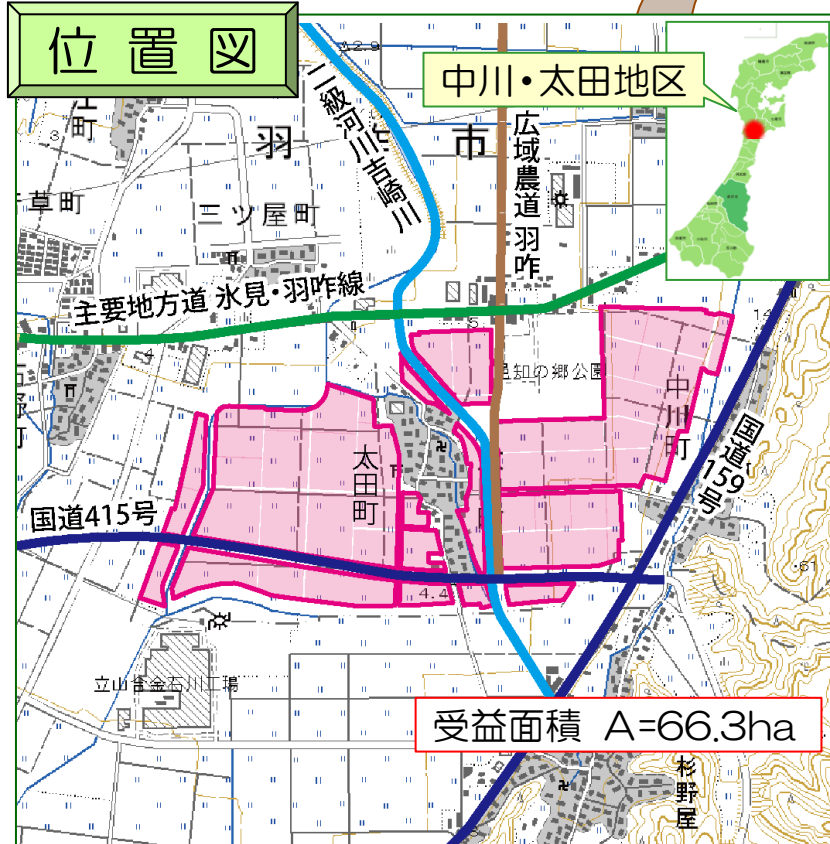
地区概要

- 箇所名：石川県羽咋市中川町、太田町地内
- 工事内容：ほ場整備 A=66.3ha
暗渠排水 A=64.7ha
- 総事業費：1,054 百万円
- 受益面積：66.3ha
- 事業期間：平成13年度～平成19年度

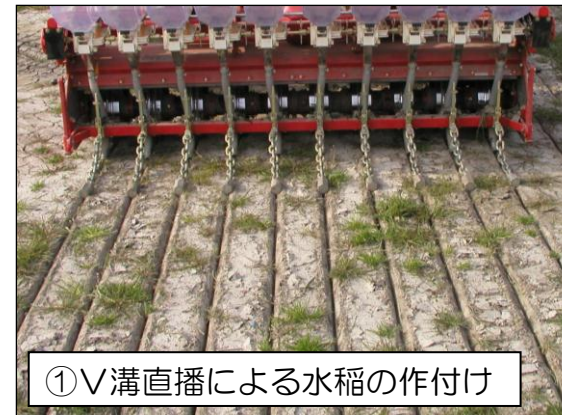
評価結果

ほ場の大区画化に伴い、共同利用による大型農業機械を導入したことで作業効率が向上し、近年は、生産組合を中心とした農作業の受委託体制が確立し、農地集積が図られてきた。また、暗渠排水により湿田が解消され、新たにそばを作付けするなど、水田の汎用化が図られている。将来は、水稲と畑作物との複合経営を視野に入れた地域農業が期待される。

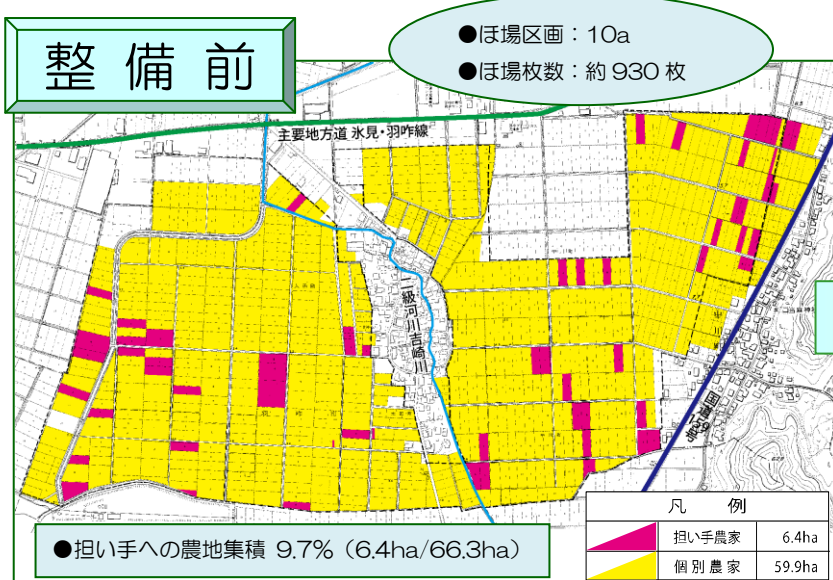
位置図



写真で見る本地区の地域農業

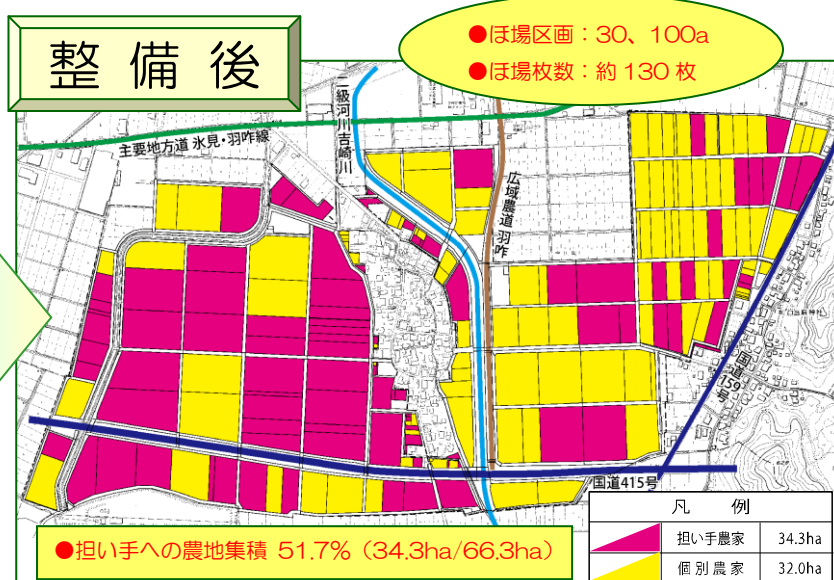


整備前



- 区画が小さく、大型機械が入れない。
- 水はけが悪く、畑作利用が難しい。
- 作付が困難で、一部荒地も見られた。
- 貸したくても借り手が見つからない。

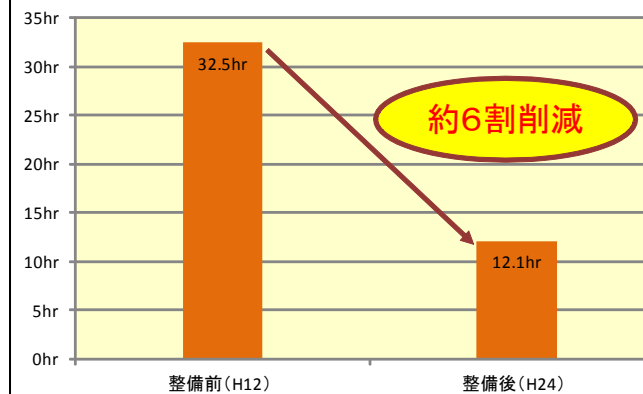
整備後



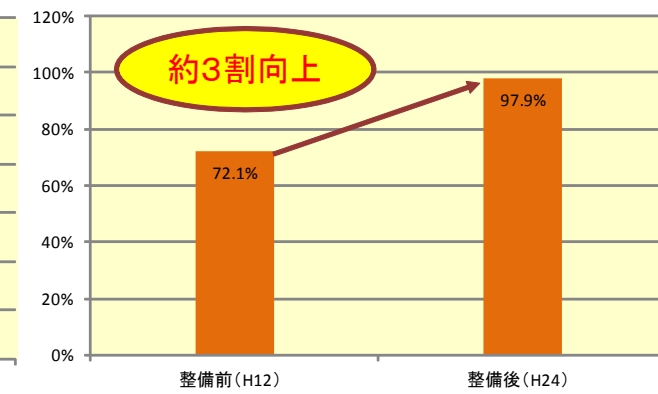
- 大区画化をきっかけに、共同利用のための大型機械を導入し、農地集積が図られた。
- 暗渠排水により湿田が解消され、農作物の生産性のほか、水田の利用率が向上した。

数字で見る事業効果

10a当たりの労働時間

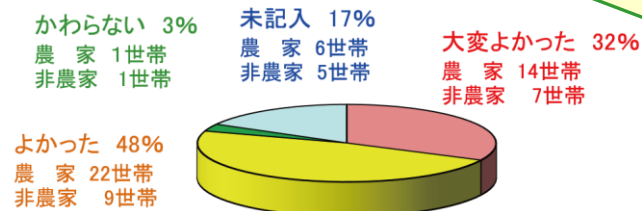


農地の利用率



地元の声

アンケート調査結果
配布：78世帯 回収：65世帯(83%)
内訳：農家43世帯・非農家22世帯



ほ場整備の実施は、地域として良かったと思いますか

一良かったと思う主な理由一

- パイプライン化で、水管理がスムーズになった。
- ほ場が大きくなり、大型機械の導入で作業効率が上がった。
- 排水路と暗渠排水の整備で田んぼが乾きやすくなった。
- 耕作をお願いしやすくなった。
- 道路網が合せて整備され、アクセスがよくなった。

今後の取り組み

- 事業を契機とし、担い手農家への農地集積や大型機械導入による営農コスト縮減などが図られ、今後は農作業の受委託体制を通じて、更なる担い手への農地集積に努める。
- 安定した直播米の栽培や加工用米の作付けについて推進していくほか、そばや飼料米などの需要拡大に合わせた多様な土地利用を展開していく。